

地域医療を育てる会 情報紙

クローバー

# CLOVER



発行表 NPO法人地域医療を育てる会  
代表 藤本晴  
http://iryousodateru.com/  
第43号 平成21年12月20日発行  
東金市東金1142「東金の家」内  
TEL:090-7634-7175

十一月二十三日(祝)九里町と東金市で、行政による一市一町地域医療センター住民説明会が行われました。この日は平澤博之センター長候補、志賀直温東金市長、川島伸也九里町長が出席し、地域医療センター計画の概要についての説明がありました。

## 新病院はどんな病院？

地域医療を育てる会では、これまでに医師不足をはじめとする「地域医療をとりまく問題」について情報発信をしてまいりましたが、前号でとりあげた「東金病院がなくなるって本当ですか？」に対する反響をいただき、このたび一市一町医療センターの事業計画をもとに「この地域から必要とされる医療の姿」について考える勉強会を立ち上げました。新センターには山武地域の中核病院としてこの地域に本来に必要なとされる病院運営をしていただけのような提案をしていきたいと考えています(\*建設反対ではありません)。というわけで、今回は現場の声を聞こう！というテーマで、地域医療を考える全国のさまざまな医師から寄せられた声をお伝えします。

## 医療センターの事業計画をきっかけに、山武地域の医療について皆さんも一緒に考えてみませんか？

二十二で、医師数は合計五十六名。その内訳は以下の通りです。

- ◆内科(2) ◆心臓血管外科
- (3) ◆リハビリテーション科
- ◆消化器内科(4) ◆整形外科(5) ◆放射線科
- (2) ◆神経内科(2) ◆脳神経外科(3) ◆麻酔科(3)
- ◆呼吸器内科(2) ◆皮膚科
- (1) ◆精神科(1) ◆循環器内科(4) ◆泌尿器科(1) ◆歯科
- ◆口腔外科(1) ◆代謝内分分泌科(2) ◆産婦人科(3)
- ◆救急科(5) ◆小児科(4)
- ◆眼科(1) ◆外科(5) ◆耳鼻咽喉科(1)

二十三日の説明会では、五十六名の医師の中には、

後期研修医も含み、加えて初期研修医も毎年十名ずつ確保する」というお話でした。

住民からは、

「医師・看護師は本当に必要な人数集まるのか？」

「経営の面は大丈夫なのか？」

という質問が相次ぎましたが、志賀市長は、

「リスクはゼロではないが、今が救急医療施設を作るためのラストチャンス」

また、平澤氏は、

「医師・看護師の確保については責任を持つ」と回答しました。

医師数は十分なのか？  
計画案をもとに、  
全国の医師に緊急アンケートを実施

さて、今回公にされた「三一四床、二二科、五十六名の常勤医」という事業計画、これは、いったいどのような病院なのでしょう。今、全国各地で医師不足が問題となつていますが、病床数と医師数のバランスはとれているのか？ 十一月の勉強会ではメンバーから、そんな疑問が出されました。

そこで私たちは、病院勤務医の率直な意見を集めるべく、緊急アンケートを実施。

「三一四床に対して五十六名の医師配置という計画について、どのような印象を持たれましたか？」

という、ごくシンプルな質問を投げかけてみたのです。

その結果、判断材料が乏しいにもかかわらず、全国各地の医師十五名から、次のような具体的で貴重なご意見がすぐに寄せられました。

早速、その中から、一部を抜粋してご紹介したいと思います。(裏面へ続く)



## 診療科目と医師数の バランスは大丈夫？

●「救急の初期診療を救急科で対応するというのであれば、救急科の人員が少なすぎますし、全科の協力の下に救急外来を運営するというのであれば専門分化しすぎているのでは？」 また、各十床のICU、HCUを作るといこうとですが、当然ここにも専属当直が必要になります。救急外来と合わせて一晩当たり少なくとも二名の当直を五十六人で回すというのはいくらに無理があるのではないでしようか(医師・Aさん・三〇代)

●「診療科が多すぎるのでは？ 人口などから考えれば、仮に外来のみだとしても一人医長は皮膚科、精神科以外は無理だと思います。また、少なくとも五十床は回復期リハビリ病棟にしないとベッドが回転しないのではないでしようか(医師・Bさん・四十代)

●「産婦人科が三人だと、二四時間体制の場合、三日に一度は当直ということになります。現実にはかなり難しいでしよう(医師・Cさん・四十代)

●「二名配置の診療科では、基本的に休暇も取れず、診療に関する技術の取得や相談もできません。一名の診療科においては、常勤の診療科数を削減しても複数名にする必要があると思います(医師・Dさん・四十代)

逆に、「三・四の病床の病院に医師は最低何人必要だと思いますか?」

という質問に対しては、「七〇名」「八〇名」「八十五名」「一〇〇名」「一二〇名」など、事業計画案の五十六名をはるかに上回る数が挙げられました。

「現在の医療業界の現状からみれば、五十六名でも良いと思う」というご意見もありましたが、結果的に十五件の回答中一件のみでした。

## 医師に「ここで働きたい」と思ってもらえる病院とは？

今回のアンケートの中に、「患者とのコミュニケーションが取りやすい環境で働きたい」という医師の声がありました。一方、「医者を大事にしない病院では働けない……」という声も。

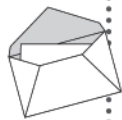
山武地域の住民は、今、誰もが救急医療の充実を望んでいます。新しい医療センターが順調に運営され、継続するために、医師にこの地域に根をおろしていただくことが大切な課題です。行政には、こうした医師たちの声を吸い上げ、事業計画の中にぜひ反映していただきたいと思えます。

文責・柳原三佳・藤本晴枝



■今回の記事に関してのご意見、ご感想、またご質問などございましたら、お手紙もしくはメールをお寄せ下さい。

<手紙の宛て先>  
〒283-8588 千葉県東金市台方1229  
千葉県立東金病院「地域医療連携室」内  
NPO法人地域医療を育てる会  
<メールアドレス>  
info@iryousodateru.com



## 「クローバー」読者からの便利

### 「東金病院閉院後、医療機能はどうなるの？」

前号(クローバー42号)の『東金病院がなくなるって本当ですか?』には、多くの反響をいただきました。東金病院が数年後に閉院されることをあの記事で初めて知った、という方も多数おられたようです。現在、東金病院に通われているという方からは、次のようなお便りをいただきました。

「今年の秋も家内と二人で、上部内視鏡、腹部エコー、下部内視鏡の検査に行ってきたのですが、医師、看護師、技師、会計係の方々が皆とても親切で、しかも迅速にやってくださって、感銘をうけました。もし医療センターを作るとしても、東金病院はぜひ今以上に充実した病院として残して下さるようお願いいたします」(七十代・男性)

やはり、東金病院が閉院されることに不安を覚えている方も少なくないようです。

地域の医療機関が、それぞれの機能をどのように分担し、連携するかを検討・指導する責任は行政にあります。東金病院が担っている医療のうち、医療センターに引き継がれない医療については、行政が責任を持ってどの医療機関に引き継いでもらうのかを示していただきたいと思います。